

授与機関名 順天堂大学

学位記番号 甲第 1455 号

Infant birth weight relate to pre-pregnancy body mass index and gestational weight gain : A one-year study of 2551 cases in Tokyo

(非妊時体格および妊娠中の体重増加量と出生時児体重との関連)

有馬 香織 (ありま かおり)

博士 (医学)

論文内容の要旨

妊娠前の体格と妊娠中の体重増加が、出生時児体重に与える影響について検討した。東京の周産期センターで一年間に 36 週以降の単胎を分娩した 2551 例の母児について後方視的に解析を行った。

非妊時 BMI (Body Mass Index) を用いて、妊娠前の体格をやせ(<18.5)、標準(18.5-24.9)、肥満(>25)の 3 群に分けた。母体年齢、非妊時 BMI、妊娠中の体重増加量、出産回数、分娩時妊娠週数、児体重、児の性別、などの項目について ANOVA 解析および χ^2 二乗検定を行った。やせ、標準、肥満の 3 群において、出生児体重に有意差を認めた ($p<0.001$)。

低出生体重児のリスク因子について、ロジステック回帰分析を行った。母体年齢 40 歳以上、妊娠中の体重増加不良、早い分娩週数(36-37 週)、初産婦、女兒の項目が、低出生体重児のハイリスクであった($p<0.05$)。

重回帰分析を行い、出生児体重の予測式を出した。分娩週数、妊娠中の体重増加量、非妊時 BMI、児の性別、分娩回数、母体年齢の項目に有意差を認めた ($p<0.001$)。

低出生体重児を減らすためには、妊娠中の体重増加量と分娩週数だけでなく、分娩回数と児の性別についても重要と考えられる。

妊娠前の体格と妊娠中の体重増加量が、出生時児体重に影響していることが分かった。